自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	加藤建設株式会社
（ユニット名）	グループホーム　ジョイクラブ
所在地 （県・市町村名）	静岡県静岡市清水区梅ヶ谷58
記入者名 （管理者）	吉川　正章
記入日	平成　19年　5月　29日

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつもとおんなじ暮らし、こまらない暮らし」、個々の馴染みの場所、人、物をより多く見つけ、共有しいつまでも大切にしている。時間のある限り、訪問、面会、話題等にして利用者の要望に応え、安心できる暮らし、安全な暮らしをさらに実現している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月、スタッフ会議を実施、また毎日、日々の報告を受け、その際方針等の周知徹底、理念に沿った指示をしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所時に説明。毎月、ジョイクラブだよりを作成、配布し活動状況を報告。運営推進会議を開催し、理解をもとめている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関周りは、草花や木を多く配置し周囲との違和感をなくし、駐車場を広く確保し車での来所をしやすくしている。門扉は常に開放し、気軽に入りやすい環境を作っている。なるべく近所の商店を利用し、利用者と買物や散歩に出かけ互いに声を掛け合っている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	季節を楽しめる行事、催しへ積極的に参加したり、ジョイまつりを開催し地元の方々を招いて、交流に努めている。	○	参加できるかぎり、自治会、老人会の活動に参加していく。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の民生委員などと情報を交換し合っている。ボランティアの唄や踊りなどの発表の場を提供している。会議などで話し合うとともに自治会、老人会等に意見を聞いている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	良い評価を受ける事を目的とせず、普段の姿で評価を受け、結果は会議で検討している。 評価の結果をすべてとせず、皆で検討し自分たちなりに評価結果に沿うように努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告をしたり意見を聞き、サービス向上に活かしている。利用者、家族との合同バーベキューを行い、実際に交流した。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて報告、連絡、相談している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	民生委員が主体となり協力している。研修会への参加や勉強会を行い、必要があれば支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会議などで常に議題にし、意識を高めている。 日常的に話し合い、互いに注意しあっている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明を行い理解、納得を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は定期的に不満、要望を聞いている。職員は常に利用者の意見に耳を傾け、迅速に対応したり、随時検討し運営に反映させ、要望に応えている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、たよりと報告書を作成し発行している。また、健康状態など随時報告し、面会時には必ず声をかけ対話を持っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に公的窓口の紹介をしている。報告時、面会時には常に意見を聞いている。また介護計画に同意をえる際にも意見を聞いている。苦情などがあった場合は、直ちに管理者担当者に報告をし対応する。会議等で対策を検討している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議には必ず出席し、毎日定時報告を受け意見や提案を聞いている。また日常的にグループホームに出入りし常に対話をしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況、要望に対応して職員を配置、外出イベント時は増員している。また職員の健康にも配慮し、勤務を調整している。 緊急時にも対応できるよう、職員を確保している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	面接は必ず2名以上で行い、面接時に業務内容、方針等を十分説明し、勤務が継続できるか見極めている。採用後，オリエンテーションを行い、理念、方針の徹底をはかり、約1ヶ月は他の職員について教育を受けている。事業部内での必要最小限の異動はあるが、常に行き来をして利用者への配慮をしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的ではないが、開催されている研修に積極的に参加させ、勤務も調整している。それに応じ内部研修をおこなっている。また管理者は日常的に助言などを行っている。	○	経験などに応じて研修計画を作成し、計画的に研修に参加する。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センターや地区社協の会合に参加し、その際同業者との情報交換などをしている。	○	自主的に訪問などして、積極的に交流をはかり情報交換を図る。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	社員旅行と親睦会を隔年で行ったり、定期的に面談し対話の場を設けている。休憩室を別に設け、冷暖房、TVを設置している。 休日出勤や時間外など、過酷な勤務にならないように、人員を確保している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各資格手当を設けており、随時昇給もしている。 研修内容に応じて、会社が必要と認めた場合、研修費用を負担している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学をしてもらったり面談をして会話の機会をつくり、さりげなく聴いている。可能であればショートステイを事前に利用してもらい、本人と話しをしたり様子を見る機会をつくっている。ケアマネや以前利用した事業所など幅広く情報を集めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	バックグラウンドアセスメントシートを事前に提出してもらい、本人や家族の求めている事を探る努力をしている。本人同様、見学や面談時に聴く機会を作っている。できる事、できない事をチェックしどの部分に支援が必要か、自分らしく能力を発揮できるか確認している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所の利用だけにこだわらず、本人の為により良い支援方法をケアマネ等の意見も聴き検討している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学時に他の利用者と交流する機会を作ったり、食事を一緒にしたりしている。可能であればショートステイを事前に利用してもらい、様子を報告した上で相談している。	○	実費ではなく、気軽にショートステイの利用ができるように、短期利用の申請ができる体制作りをしていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人一人の人格を尊重し、それぞれの役割を持って、家庭的な環境の下で日常生活が送れるよう配慮している。家事や会話などを通じ互いに学び、支え合い、常に認め合い、感謝する事を忘れないようにしている。喜びや楽しみはもちろんの事、怒りや哀しみも互いに表現しあっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう心がけている。必ず対話をして、世間話も含めて報告や以前の様子などを聞いている。以前の苦労話を聞いてあげたり、本人の今出来る事を喜び合ったり、共に支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が家族を、家族が本人を大切に想う気持ちを理解し。互いの気持ちをそれぞれに伝えている。以前の介護の苦労も聞きながら、面会時にはそのような事は忘れて、家族としての良い関係で入れるよう配慮しフォローしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、家族など誰でもいつでも訪ねてこれるよう配慮し、歓迎している。外出、ドライブの際は、利用者と行きたい場所を決定したり、地元や地域の名所旧跡に行っている。利用者個々の馴染みの人、場所を把握し、こちらから話題に出している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士を同じテーブルにしたり、職員が間に入って会話をひきだしたりして、利用者同志が交流し対話を持ち長くくつろげるよう努めている。個々の能力に合わせて仕事を提供し、利用者同志で協力し合える場を作っている。時々、席替えをして交流がかたよらないようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要な場合は、連絡を取っている。入院した場合は、家族に様子を聞いたり、見舞いに行って実際に様子を見たりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に利用者の生活状況や趣味嗜好などをバックグラウンドアセスメントシートに記入してもらい、さらに本人との会話や日常生活のなかから経験などの把握に努めている。どの部分にどのように支援したら自分らしく能力を発揮できるか検討し確認しあっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が生き生きと、これまでの生活や経験、出来事、希望などを話せるように言葉をかけたり、雰囲気作りをしている。十分に話を聞きしっかり受け止め検討している。家族、ケアマネ、利用した事業所など関わりのある人からの情報を聞いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族からの情報提供や、本人との会話の中や、日常生活、健康状態を見ながら検討し、把握している。 職員が現状を共有し、変化があった場合は常に見直している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日頃の会話や家族との対話のなかでケアのあり方などを話題にし意見を聞いている。会議で職員個々の意見や、家族の意見を出し合い介護計画を作成している。家族に介護計画を確認、署名してもらう際にも意見を聞いている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直し、新たな計画を作成している。また、毎月の会議の中でも見直し、検討している。変化が生じた場合はもちろん、日々、職員間で現状に即した話し合いをし対応している。それらは口頭及びノートで申し送り、共有している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し概況を全て記録している。また、申し送りノートと出勤時に申し送りの時間を設け、情報の確実な伝達と共有を図っている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の要望に応じ、併設のデイサービス、マシンリハビリの利用をしている。家族の状況に応じ外出、通院支援、緊急宿泊サービスを実施している。 看護職員による、医療相談をしている。	○	さらに気軽に宿泊サービスが利用できるように、介護保険を利用しての短期利用ができる体制作りと、小規模多機能型居宅介護を検討中。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員と連絡をとり協力し合っている。 意向や必要性に応じて協力、支援を働きかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設のデイサービスと協力し合い、連携し支援している。 意向や必要性に応じて協力、支援を働きかけている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	民生委員が主体となり協力している。 意向や必要性に応じて協力、支援を働きかけている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までかかっていた医療機関へ継続してかかってもらっている。不可能な場合、納得が得られない場合は、協力を受けている医療機関への受診を勧め、本人、家族の了解を得て受診を支援している。通院、定期健診等できるだけ家族の協力をお願いしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	理解のある医療機関に協力を仰ぎ、往診できる体制をとってもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日、看護職員がバイタルチェック、問診を行い、常に職員、利用者の相談を受けながら健康管理、医療支援をしている。日中、夜間連絡の取れる限り看護職員に報告、相談、指示を受け、連絡が取れない場合は、利用者をよく知る系列の訪問看護ステーションと協定しており24時間の医療支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、安全に安心して過ごせるよう、また退院時には、今後の支援方法等の相談や情報交換に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	マニュアルを作成し、いつでも対応できる体制をとっている。研修会への参加、内部研修などにより意識を高めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	マニュアルを作成し、いつでも対応できる体制をとっている。研修会への参加、内部研修などにより意識を高めている。系列の訪問看護ステーションと連携し検討、準備をしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者本位で考え、協力を惜しまない。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	大声を出したり、おおげさにしたりせずさりげなく見守り、対応している。記録などの個人情報は、それぞれのファイルに保管している。 各利用者の生活暦を把握し、プライドを損ねない、信頼を得られる対応を心がけている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	したい事、行きたい所、想っている事が表現できるような声かけをしている。行動や思いを制限する事なく、本人にお伺いをたてることで、決定権を本人に委ねている。命令ではなく、声かけ、本人に合わせた説明をして強制はしない。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな生活の流れは職員が声かけするが、時間の配分などは、利用者本人に委ねている。外出や買物の希望を聞いて支援している。日中居室にこもりがち、横になりかち等、またリハビリ等健康に留意した誘導は、声かけ説明をして行っている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服の選択を正しくできない利用者には、職員が選択している。本人の好みに任せている。身だしなみや化粧の支援をしている。外出時にはちょっとしたおしゃれを心がけ、一緒に服を選んだりする。馴染みの美容院等あれば行ってもらっている。定期的に移動美容院を利用し本人の好みに合わせている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞きながら決め、毎日一緒に買物に行く。利用者の力に合わせ準備、片付けをし、また食事は、スタッフを含め全員で楽しく自然な会話をもてるようにしている。希望が出ず結果的に職員が決める事が多いが、意見や知識を借りたり会話の話題としている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の趣味嗜好を理解し、酒、たばこ、菓子など、一緒に買物に行って支援している。自分で管理できる場合は本人が管理し、できない場合は預かって希望があったときや職員が聞いて支援している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人一人の排泄パターンに合わせて、必要に応じて時間によるさりげないトイレ誘導をしている。オムツは使用しておらず、必要に応じてリハビリパンツを使用している。。下着の交換などは、トイレや居室で、他の利用者に気付かれないように行っている。また、大げさにならないように声かけなどを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望を聞いて毎日入浴を促している。できるだけそれぞれの希望の時間に利用できるようにしている。、個浴で一人でゆっくり入浴する事ができる、入浴時間、湯温も健康に留意しながら自由に、希望を聞きながら、確認しながらさりげない声かけと見守りで、安心して楽しめるよう心がけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	起床就寝時間はきめておらず、一人一人の生活習慣、リズムにまかせて、あるいは合わせて声かけをしている。夜間に気持ちよく眠れるように、日中は併設のデイサービスの利用やレク、家事や買物などの外出、散歩でなるべく活動的に過ごすようにしている。また体調、症状などに合わせて、居室で休息をとるなどしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からの情報提供や、本人との会話の中から経験や楽しみを把握し、それらの情報を共有している。、日常生活の中での出来事をできるだけ多く提供し、力を生かしたり、興味のあることや役割をみつけだせるよう努めている。その日の気分でドライブ、散歩に出かけたり、TV番組を自由に選んでもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能であると判断できる利用者には、家族の了承を得た上で本人が管理している。買物や外出時、自分で好きなものが買えるよう支援している。管理が難しい利用者は、職員が管理し、一緒に買物などができるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物には毎日希望を聞いたり、誘うようにして出かけている。散歩、ドライブも日常的に出かけている。外出先などは利用者の要望を聞いたり、その日の会話の中で誘うようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度はどんなものが食べたいか希望を聞いて、回転寿司、ファミリーレストラン、馴染みの店などに外食に出かけている。馴染みの場所や行事を考慮して季節に応じた行事を企画し、花見、美術館、七夕などに出かけている。家族にも行事予定を渡して参加をよびかけている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望した場合は、対応をしている。本人、家族の希望により携帯電話の利用もしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決めていない。いつでも気軽に訪問できるよう鍵は掛けず、駐車スペースも広くとってある。居室、リビングをその時の状況に応じて自由に利用してもらっている。職員や他の利用者を交えて会話をしたり、居心地よく過ごせるよう心がけている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束用具は使用していない。施錠はしていない。身体拘束となる行為を正しく理解し、互いに注意しあうようにしたりセンサーを設置するなど工夫をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に施錠はしていない。居室の鍵は利用者の意志にまかせ、外から施錠はしていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員一人一人が利用者の所在や様子を把握する様努め、また共有するようにしている。確認、見守る際はさりげなくするよう配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	持込を禁止している物はないが火気は必要な場合に限り職員が管理するようにしている。危険なものは状態に応じて、居室のみの使用に限ったり、職員が管理し使用する際は職員がついたりなどしている。特に馴染みの物や趣味嗜好に関わるものは、使いたい時に使えるよう、危険のないよう配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態を把握し、また変化があった場合もすぐ対応できるよう申し送りなどして情報を共有している。研修などで学んだ知識や情報は、常に提案や工夫に役立て事故防止に取り組んでいる。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、また日頃から急変、事故時の対応を話し合っている。看護職員や訪問看護師と24時間連絡が取れる体制になっており指示を仰ぐことになっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施している。自治会や隣近所への働きかけはしている。	○	消防、警察などの協力のもと地域の方にも参加を呼びかけ、避難訓練などを実施する。 地域の訓練の際、声を掛けてもろう。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	変化があった時などは、家族に連絡し本人に会った対応策を相談したり、提案をしている。 今の暮らしが変わらないよう、シルバーカーやクッション、ベッド、靴など状態の変化に合わせ提案している。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、看護師が血圧などのバイタルチェックを行い、記録している。入浴時に、身体の異常をチェックしている。毎月１日に体重測定を行い記録している。変化が見られる場合看護師に報告し、指示のもと運動、食事の量、内容を調整したりしている。また体調の変化、異常は速やかに家族に報告している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとの処方内容の説明書を控えすぐに目的、副作用を確認できる。用法、用量、誰が服薬をしたかは一覧表で確認できる。。夜勤者が一覧表でチェックしながら、翌日の服薬分を一人一人分けて準備している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品や繊維質の食物を多く摂るように心がけている。運動のため散歩や買物、デイサービス、またちょっとしたことでもできる事はなるべく自分でするように促し日常的に身体を動かす機会を設けている。排泄の状況を把握し、本人の訴えを聞いたり、水分量をチェックし補給をこまめに促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、うがい、歯磨きの声かけをして実施している。それぞれの力に応じて支援している。うがいにはスーパー次亜水を使用している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、一定量をほぼ一定の時刻に提供して摂取量を記録している。体調不良などで食事量が少ないときは栄養補助食品などを提供している。力に応じて介助したりしている。水分も随時提供し、量を記録している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	インフルエンザの予防接種は職員を含め全員受けている。マニュアルを作成し、スタンダードプリコーションを呼びかけ実行している。掃除、排泄の介助等の際はプラスチックグローブを使用している。タオルは共有せずペーパータオルを使用している。加湿器、掃除にはスーパー次亜水を使用し常に湿度維持と殺菌に心がけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は随時、毎晩必ず掃除している。拭き掃除、調理器具や食器はスーパー次亜水を使用して吹いたり、スプレーし衛生管理に努めている。食材は買いだめせず、毎日買物に行き新鮮な物を使用し、毎晩食材のチェックをして期限などをチェックし、処分している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは草花や木を多く配置し違和感や威圧感をなくし、玄関前には広々とした駐車場もあり安心して出入りできる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	主なものは木目調のものを使用し、馴染みやすく落ち着いた雰囲気にしてある。手作りのカレンダーなどで季節感をだしている。テレビの音、職員の声は大き過ぎないように注意しあっている。リビングの窓は大きく、また廊下には天窓を使用し、浴室も自然の光が入るようにしてある。リビングの横には共用できる畳の和室を設けてある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際はだいたい席を決めているが、普段は思い思いの席で自由に過ごす事ができる。リビングと居室の中間の共用空間として和室を設けている。冬場はこたつをだしている。	○	畳に座る事が大変な利用者が多いので、和室を気軽に利用してもらうために、ソファーやいす、テレビの設置を検討している。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などは利用者が使用していた馴染みの物を持ち込んでいる。家族の写真を貼ったり、仏壇を置いたり、自由に居心地よく過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビング、居室とも、スーパー次亜水を入れた加湿器を常に使用し除菌、消臭をしている。換気扇と窓を開けての喚起を適時している。温度調節は昼夜適切な温度を保つよう配慮している。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを適切な場所、位置に配置し、安全に力を活かせるようにしている。キッチンは高齢者の体型に合わせ低めに設定してある。 必要に応じて、新たに手すりなどを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	特に置いてはいけないものなどを定めてはいないが、ふさわしくない物、誤解、不安を招きやすいものは置かない。混乱、失敗があっても騒いだり、怒ったりせず、わかる力に応じて説明などしている。混乱、失敗の要因になったものは、場所を変えたり片付けたり工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	駐車場が広く散歩ができるようになっている。花壇の水撒きをしている。リビングからウッドデッキのベランダに出られるようになっており、自分たちで洗濯物が干せるようになっている。また、水撒き、草取り、夏場ベランダで食事したりする。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

本人のできる事はなるべく自分でしていただくよう、お願い、支援をしている。できた事を認めたり感謝する事を忘れずに、できる可能性、自信のある暮らしを導き、また利用者との信頼関係から家庭的な環境を築いていくことにより、いつもとおんなじ暮らし（安全）、こまらない暮らし（安心）の提供ができるように取り組んでいる。
買物には、毎日、地域の商店や大型スーパーに職員と一緒に出かけ、月に一度、利用者と何を食べたいか相談し外食に出かけている。
季節の花を楽しんだり、イベントに等に参加するため、地域の名所やまつり、美術館等に随時出かけている。
毎年、秋には、ジョイまつりを開催し出店やフリーマーケットをおこない地域の方々とふれあっている。
家族等との交流も積極的に行い、毎年初夏には、家族交流バーベキュー大会を実施している。面会時には利用者と家族等との良い時間が持てるよう、また利用者と家族等がいつまでも良い関係でいられるように互いを支援している。